



佐藤常務執行役員へのインタビュー

【機材センターとの思い出、エピソード】

私は、機材センターには、もちろん全てのプロジェクトでお世話になりました。見習い明けで東京に来た当時、大手センタービル作業所の配属になりまして、（基礎工事担当は）初めてでしたけども、その時から機材センターにお世話になりました。基本的には土工事と機械関係はすべて機材センターに世話になる、世話になるものだ、と思ってきました。

あそこ（大手センタービルの作業所敷地）は割と、構真柱をやるには狭い敷地で、構真柱のジョイントヤード、掘削と建て込みを考えると非常に狭い。地下2階（レベル）での施工だったので、地上がそんなになくて、上空が狭い中で工事をしました。

工期的にも非常に短工期でやらないといけないというところで、（くい打ち）機械を2台にするかという計画案もあったけれど、機械を2台にすると結局能率があがらず、（敷地内が）機械ばかりになり、コストもかかるという事で、1台の機械で昼夜の施工とし、夜掘って昼間建方することとしました。その時に（機材センターからの施工管理者に）お世話になって、スライムという言葉や、くいの施工・精度・品質、それから構真柱の建て込み精度といったものを勉強させて頂きました。

開発も色々させてもらって、大耐力杭など機材センターの敷地でやらせてもらって、その時も掘削技術とか精度管理など、開発に対する色々なアイデアももらったりしました。そういう意味ではすごい情熱をもった人たちの中で、色々考え方を教えてもらったりしました。

また、機材センターといえど何ととっても、運動会やスポーツ大会のものすごい情熱が記憶に残っています。その頃は、本当にすごい情熱で「一番しかありえない！！」というような熱気で、チームの一体感を発揮して活躍されていました。それが機材センターの情熱であり、DNA だという風に思っていました。

【安全・品質・コンプライアンスに関して】

機材センターというのは、竹中工務店の作品の歴史を支える本当に重要な役割を果たして来ているので、機材センターがなかったら（竹中工務店の）作品がないという事なので、とにかく確実な施工・品質確保と、たゆまない開発改善をお願いしたい。

【生産性向上について】

生産性というと、ハードの面とソフトの面と両方合いまって成り立つんですけど、まず矢張り目に見えるという意味で、竹中の技術だよという、何か1つ機械的なもので、若い人や子供さんなど一般の人にもインパクトのあるものが何か欲しいという気がします。何でもいいし、何かというのは言えないけれど、インパクトのあるものが欲しいなという風には思います。

プラス、（ソフト面では）管理の効率化という意味で、施工管理なり、マネジメントのデジタル化は欠かせないと思うので、デジタル（技術）を利用した生産性の向上の実現をお願いしたい。

【機材センターの将来の活動に対して】

どちらかという、建設業界、国土交通省が進めているIT化やI-Constructionは、やりやすいというか、1つの単純作業で効率の伸びる土木関連の作業（への適応）が非常に多い。建築の中でもそういうものができればいいなと思っています。いろんな取組みがあるものの、部分的には有効だが全体的に全て適用して効果が出せるかということそうではないところが、建築の難しさってところはあるものの、チャレンジしていければなという気はします。

【機材センターに対しての御意見】

とにかく、私が言いたいのは、竹中の歴史の中の作品には、必ず機材センターの力がある。建物のベースとなる土工事や基礎工事それから花形である建設機械等は機材センターの技術力である。それがなければ作品は出来上がらない。

そういう意味で、竹中工務店として機材センターなくしては仕事が出来ない。そこで働く機材センター職員に敬意をもっている。機材センターの皆さんも誇りをもって働いていただいていますし、これからも誇りを持ち続けて頂きたいと思います。